

# 和歌山市立加太小学校

## 平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

### 調査内容

実施日：平成 28 年 4 月 19 日(火)実施対象：6 年生 A 学級 9 名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・数学の 2 教科について、「知識」と「活用」の 2 種類の問題が出題されます。  
**国語A・算数A**では、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて  
**国語B・算数B**では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されます。

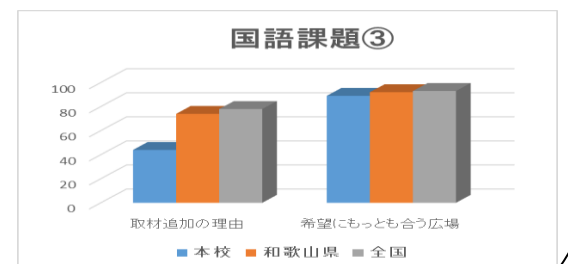
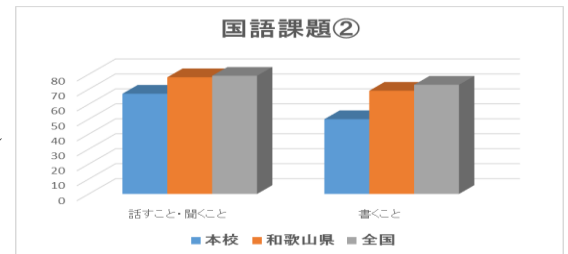
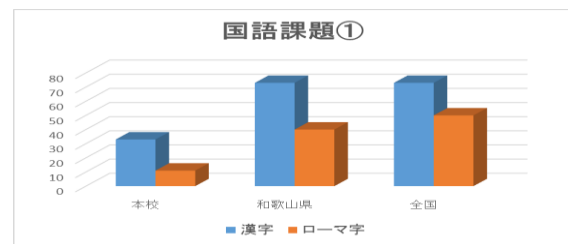
### 教科調査の結果分析より

#### 《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

■課題① 語彙力、既習漢字の定着ができていない。「貯金」「種」「相談」など日ごろ使うことのある漢字の読み書きは、100%の正答率だが、「省く」「親しい」等の漢字の読み書きができていない。また、ローマ字の読み書き「あさって」「hyaku」等が、ほとんどの児童ができていない。

■課題② 「話すこと・聞くこと」に関わる問題は、県 78%、全国 73%に比べ、正答率が少し低い。  
 また、「書くこと」に関する問題も、県 69% 全国 73%に比べ少し低い。

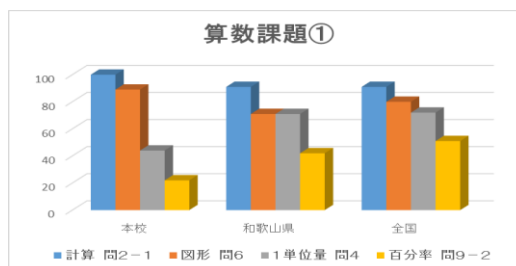
■課題③ 「読むこと」に関わる問題は、本校 78%、県 78%、全国 79%とほぼ同じであるが、問題の中にある資料を分析する等、読み取る力が不足している。



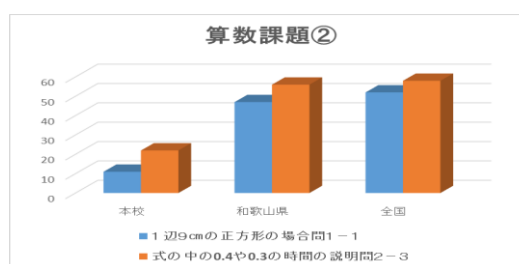
## 教科調査の結果分析より

### 〈算数科の調査結果に見える本校児童の傾向〉

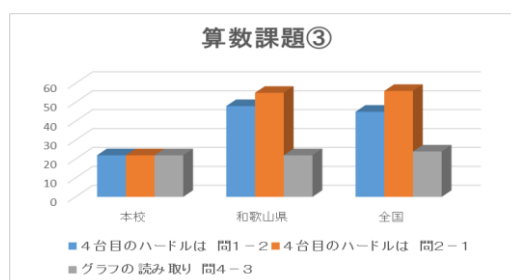
■課題①「数と計算」では、100%の正答率が、3問あり、[図形]に関わる問題でも89%の正答率があり、県や全国とほぼ同じ正答率である。しかし、「量と測定」「数量関係（割合・百分率）」に関わる問題、基準量と比較量の関係が理解できていないと正答率が少ない。



■課題② 文章を読んで、予想して図（絵）に表すことや説明された図から式を導き出すこと等数学的な考え方が苦手である。また、教科書の問題形式と本学力調査の問題形式が違うため、問題を読み取れていない。問題慣れできていない。



■課題③ 問題文の理解不足（読解力不足）、また表やグラフから読み取り、説明の記述を行うことができていない。読み取り不足が、原因による間違いが多い。



## 質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

○〈書くことや発表することに慣れる〉

「目的に応じて資料を読み自分の考えを話したり、書いたりしている」のそう思うが、0%で、全国平均より25%低い。しかし、どちらかと言うとそう思うを含むと89%で全国平均67%より、22%高い。この結果から、「目的に応じて資料を読む」というところが弱いと考える。目的を持って自分の意見をまとめ書かせる時間の確保を学習の中で大切にす。また、日々の作文活動でも、学年に応じて作文の内容に負荷をつけたり、伝える意欲や自信につなげたりできる指導を行う。

## 質問紙調査の結果分析より

### ○《より楽しく、興味のある授業を目指す》

「算数の勉強は好きですか」の質問は、「当てはまる・どちらか当てはまる」が100%、全国平均66%で本校が34%高い。「国語の勉強は大切ですか」の質問は、78%、全国平均58%で本校が20%高い。また、「算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずに色々な方法を考えます」の質問は、100%、全国平均81%で本校が19%高い。しかし、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問は、全国平均81%、とこれは、本校が少し低くなっている。国語をもっと好きになり、児童自らが意欲を持って、積極的に学習に取り組めるよう、毎日の授業での「めあて」の提示や日々の授業の指導方法の工夫改善に努める。

### ○《家庭の学習時間の確保》

「学校の授業以外に、月～金曜日に1日どれくらいの時間勉強しますか」の質問に、「3時間以上」は、全国平均より低くなっている。また「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どのくらいの時間勉強しますか」の質問でも、本校は「4時間以上」、「3時間以上」も、全国平均より低くなっている。この結果からも、家庭学習・自主学習の時間が少ない傾向にあるので、「家庭学習ノート」を用いて予習・復習の意識付けを行うと共に、予習をして翌日の学習に備える習慣を身に付けさせる。

### ○《よい生活習慣を身に着ける》

「朝食を毎日食べている」の質問は、「当てはまる・どちらか当てはまる」が、全国平均95%で本校が少し低くなっている。また、「毎日同じ時刻に寝ていますか」の質問も、全国平均80%より本校が少し低くなっている。「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問も、全国平均91%より本校が少し低くなっている。起床時刻が一定でないのが気になり、規則正しい生活が過ごせるよう家庭と連携を取りながら取り組む。スマートフォンやメール・インターネットをする時間は、少ない傾向だが、テレビ・携帯ゲームなどに「1時間以上2時間より少ない」が67%と多い。家庭の協力のもと、お手伝いや外遊びなどの時間を増やしていきたい。また、夏休み明けに「生活チェック表」を使って、規則正しい生活ができるよう指導しているが、普段より指導を行っていく。

良い姿勢が、大きく学力向上にもつながっていくことから、昨年度より取り組んでいる、「ぐう・ぺた・ぴん・とん」の姿勢指導を継続し、正しい姿勢で過ごせるようにしていく。

## 調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

### 《基礎学力の定着》

本校では、毎日、「百マス作文」「お話なあに」「朝読書」を行っている。「百マス作文」は、「書くこと」に慣れることを目的に取り組んでいるが、学年の発達段階に応じて、課題を決めたり、書き出しを考えさせたりと負荷をつけた取り組みを行う。学力の定着として「チャレンジタイム」「学力アップ」など実施し、国語の「読み、書き、読解、表現」や算数の「四則計算、筆算」などの基礎学力の定着、スキルアップを行っている。「チャレンジタイム」では、一人一人の課題に合わせ問題に取り組んでいる。

### 《読書100冊》

本を読むことは、言葉や漢字を覚え、様々な知識を得ることができる。また、創造力が高まり、たくさんの情報を手に入れ、問題解決能力が広がる。「うちどく」の推進をはじめ、「年間100冊読もう」と児童に目標を決めさせている。ブックトークや読み聞かせ等も入れて、読書の楽しさを味わわせるとともに、学校図書館を活用させ、資料を読んだり資料採集活動をしたりして積極的に取り組ませる。

### 《家庭学習ノートの充実》

家庭学習、自主学習の時間が少ない傾向にある。家庭学習は、学校で学習したことを確かめ確認ができ、学力の定着にも大きな役割を果たす。家庭学習の重要性と取り組ませ方を具体的に示し、家庭と学校が連携した学習を行っていく。

「家庭学習の手引き」を配布するとともに、「家庭学習ノート」の書き方、課題の見つけ方を具体的に示し、保護者に手紙を配布する。児童には、ノートの書き方や課題の選び方を指導する。「家庭学習ノート」の充実を図り学習習慣の定着を行う。

### 《主体的に学習に参加し、友達と学びを深める》

日々の授業において、児童が自ら「考えてみたい、聞きたい・話し合いたい」と思えるような、「めあて」を考え、一人学びの時間を確保し、自分の考えをまとめさせる。ペア学習・グループ学習を行い、自分の考えを発表したり、他の意見を聴き合ったりして学びを深めていく。同時に振り返りの指導も大切にし、児童の思いを次時につなげられるようにする。